

特集
2~4

秋期特別貯蓄推進運動



電球型LEDランプで苗床の害虫防除

ハスモンヨトウ、オオタバコガなどの夜蛾類の成虫は、黄色系の光を充てると、複眼が明反応となり昼間と勘違いし行動が抑制されます。また、忌避効果や産卵・交尾抑制効果があります。

数年前より技術導入され、従来は電球型蛍光灯(ナイスボール)に特殊塗料を塗布したものを使用していましたが、近年のLEDランプの普及により、電球型蛍光灯の入手が困難となってきました。

そこで、本年より長野県で実績のある電球型LEDランプ(商品名:レビガードシャイン)で代替することになりました。配線は従来のものをそのまま使用できます。

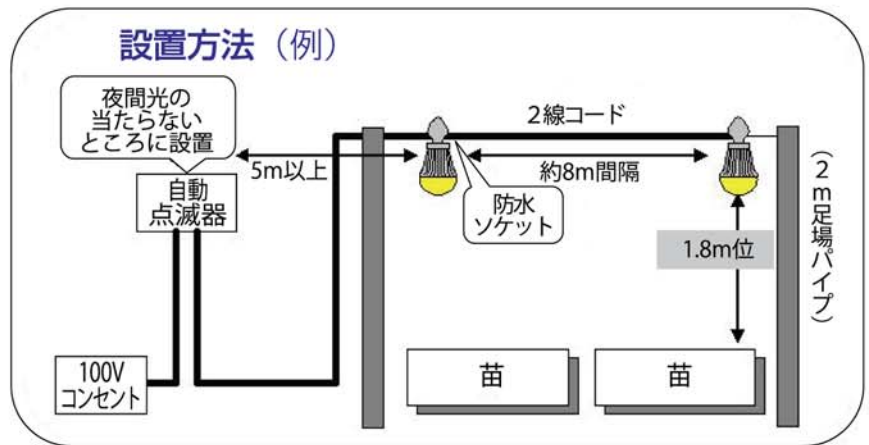
LEDランプは消費電力が少なく、耐用年数も長くなります。また、指光性(光が集中して拡散しないこと)が高いため、設置方法の工夫によっては広い範囲の防除が可能です。

ただし、ご使用に当たっては以下のことに注意してください。

- ①従来型同様、ランプの故障防止のため、風雨時は収納してください。
- ②アブラムシには効果がありませんので、薬剤防除を行ってください。
- ③ウツバ類は早めの点灯が効果的です。



レビガードシャイン
(消費電力4.3W)



レタスビッグベイン病対策は 生育初期の保温が肝心！

南淡路普及センターだより

近年のレタスビッグベイン病の発病ほ場率は、依然3割程度と高い水準で推移しています。これは、この病気が一度発病すると病原菌を完全に死滅させることが困難であるためで、発病しにくいよう、いかに上手く「つき合う」かがポイントになります。

そこで今回は、つき合い方の1つとして「生育初期の保温」についてお話します。レタスビッグベイン病が出ているほ場で、厳寒期穫りレタスにおいて同じ品種、同じ種日、同じ定植日で、トンネル設置時期を変えた現地試験を行いました。早期トンネル区(12月10日)では発病率が0%、2L・Lの大

玉比率は56%と遅期トンネル区(1月4日)より改善されました。トンネルを早めに設置し生育初期に保温することで、レタスビッグベイン病の発病が遅れることにより、厳寒期の大き玉化を図ることができるのです。

12月上中旬は、レタス収穫作業で多忙な時期となります。しかし、早期のトンネル設置は、ビッグベイン病の影響を下げ、単価の高い厳寒期のレタスを高品質・安定出荷するための、抜群に効果の高い1つの方法です。上手く労力を分散しながら実践していただき、増収につなげてみてください。

トンネル設置時期の違いによる階級・ビッグベイン発病割合

- ▷品 種:レボリューション
- ▷は種日:10月4日
- ▷マルチ:10月14日
- ▷定植日:11月4日
- ▷トンネル設置:早期=12月10日
遅期=1月4日
- ▷調査日:2月8日

区 名	階級割合(%)				ビッグベイン 発病率(%)
	2L	L	M	S	
早期トンネル区(12/10)	8.0	48.0	34.0	10.0	0.0
遅期トンネル区(1/4)	0.0	8.0	52.0	40.0	16.0

※試験結果は同一ほ場によるものです。